

お忙しくても、約 2 分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895

FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

ソニーとパナソニックの明暗の差はどこか

1. 「パナソニックに学ぶべきことは多い」。一昔前ではあり得なかった企業の名前が、ソニー経営陣の口からポツポツと漏れ始めている。かつてソニーは、「モルモット」と評された。戦後すぐに誕生したベンチャー企業だったソニーは、貴重な資金を使って人と技術、時間をつぎ込んで革新的な製品を生み出してきた。ところが、ソニーの成功を見届けると、すぐに大企業が似たような製品と潤沢な資金で参入し、市場を席卷してしまうということが続いた。その代表格が松下電器産業（現在のパナソニック）である。
2. ところが、半世紀の時を超えて今、ついに「モルモット」と松下電器は逆転してしまった。では、いったいソニーはパナソニックから何を学ぼうというのか。それは、技術や製品ではなく、経営戦略だ。実は 2 社の現トップは 2010 年ほぼ同時期に、共に最悪の状態でバトンを受け取っている。一般的にトップ就任 1 年目は、前任者の責任にもできるため、業績の悪さに目をつぶってもらえることが多い。1 年目こそ、損失を出してでもこれまでの膿を出し切る絶好のチャンスだった。
3. しかし、平井ソニーは、その大事な 1 年目を、資産売却の「錬金術」による黒字達成のために費いやした。その結果、テレビ事業をはじめとした経営課題に対して、抜本的改革の手を打てなかった。対照的に、津賀パナソニックは、1 年目で課題事業の減損を敢行し、2 年連続となる 7000 億超の巨額赤字を計上し、2 年目に復活の兆しが見えた。

(参考:「週刊ダイヤモンド」2014 年 4 月 20 日号)

街の活性化策

空き家をアート化し再利用

1. 日本の総住宅数 5,759 万戸のうち、空き家の数は 757 万戸で、空き家率は実に 13.1%にも上る。管理されていない家も多く、ゴミの不法投棄や不法侵入といった犯罪の温床となるなど、社会問題化している。茨城県取手市を芸術の街にしようと活動する「取手アートプロジェクト」(TAP)が、団地の改修などを手がける(株)オープン・エーと共に始めた「取手アート不動産」は、空き家を「アートな家」に再生し貸し出す事業だ。
2. 空き家のオーナー、アーティスト、新しいライフスタイルを求める住民をマッチングさせ、家が「作品化」される。アートを取り入れた家に住むことで新しい暮らしが生まれ、さらに街の風景も変わっていく。

(参考:「野村週報」:2014 年 7 月 7 日号)

ワンポイント経営アドバイス

新 4 大工業地帯

1. 経済産業省の「工場立地動向調査」によると、2013 年に立地件数、面積、他県企業の進出数すべてで 1 位に輝いたのは、北関東の茨城県だった。創業の地である東京都日野市から茨城県に主力工場を移す日野自動車。茨城港に並び立ち、建設機械を世界中に輸出するコマツと日立建機。茨城県は東京の本社や研究機関の多いつくば市に近く、R&D機能(研究開発)と一体化しているため茨城県への工場進出が相次いでいる。
2. かつて、社会科で「4 大工業地帯」を学んだが、現在
 - ①東北第 2 トヨタ市(宮城県大衡村と周辺地域)
 - ②北関東横断工場ロード(北関東自動車道や首都圏中央連絡自動車道「圏央道」の周辺に建つ工場群)
 - ③グローバルニッチトップベルト(「30 年間は震度 5 強以上の確率の少ない地域」で、中国地方から北陸地方に分散)
 - ④アジア一体工業地帯(東京にも中国や韓国に近いエリア)の新 4 大工業地帯に変わってきている。

(参考:「日経ビジネス」2014 年 4 月 28 日・5 月 5 日号)

古典に学ぶ

不争の徳

(解説) 立派な武士は、強がらない。戦上手は、誘いに乗らない。勝つことの名人は、やたらと喧嘩腰にならない。人使いの巧者は、相手の下手に出る。これが不争の徳である。不争の徳は、人の力を最大限に利用する。これが天道の極意である。

(参考:奥平卓・大村益夫訳「老子・列子」:徳間書店)